

## **釜石市民生児童委員協議会**

### **釜石市民児協から「釜石は今…」**

#### **～被災地の現在と課題への取組みを伝える～**

(平成 25 年 1 月 18 日掲載)

釜石市民児協では、東日本大震災発生以降、さまざまな民児協活動を行ってきました。震災発生当初は避難所の支援や在宅避難者への対応が主で、民生委員・児童委員が保持している地域福祉の情報を活かし、きめ細やかな支援に努めました。現在でも、被災者の最新情報を収集し、必要な支援があれば行政や社会福祉協議会への仲介役となり、日々活動に励んでいます。

釜石市民児協では、これまで月に 1、2 回、他県や県内の民児協との情報交換会を行ってきました。被災者支援に加え、「災害を風化させない」という意識を持ち、他の民児協との交流を積極的に行うようにしています。

震災直後は、地域に詳しい民生委員・児童委員が、入居者の把握が難しいみなし仮設住宅を訪問し、どんな方が暮らしているか、生活するうえで何に困っているかなどを調査し、必要に応じて物資を届けるなどの活動を行いました。また、一昨年 1 2 月まで在宅避難者調査を行い、地域の状況を把握し、支援の差が広がらないよう日頃の声かけ、見守り活動に取り組みました。現在も定期的な声かけ、見守り活動は欠かさず行っています。

訪問先の被災者からは、生活費などの生活相談もありますが、自分が住んでいた場所にいつになったら戻れるのかなど、将来設計をする上で住宅についての不安の声を聞きます。

被災した委員のなかには、震災前に担当していた地区での支援活動を続けながら、自分は離れた地区に住んでいる人もいます。震災前からの担当地区の住民から困りごとの相談があれば、そちらまで伺いますし、以前は会議をするのに歩いて 5 分程度だったところまで、車で 20～30 分かけてくる委員もいます。ガソリン代などの費用もかかり、苦勞しているところです。

また、委員自身が仮設住宅に移った際には、その地区を新たに担当しています。仮設住宅にはさまざまな地区から住民が入居しており、委員は一から関係作りをしていかなければなりません。今までは、近所の顔なじみの方に、気にかけている住民の様子を聞くなどしながら情報を得ていましたが、そのような協力をしてくださる方もおらず、顔なじみの関係をつくるころからはじめていくため、見守り活動も以前のようにスムーズにいかないところが難しく感じます。

以上のような、発災当時から現在に至るまでの民生委員・児童委員活動を情報交換会に参加された方々にお伝えしています。情報交換会に参加された方々が地元に戻った際に、地域の住民の皆さんに、見たこと、感じたことを伝えていただきたいと考えています。

これから、何か新しい活動に取り組んでいかなければ、と思う反面、離れた元の地区と仮設住宅とを見守り活動している委員の負担も考慮しなければなりません。まずは、日頃の訪問、見守り活動を行い、震災前の状態に戻すことを目標に、活動を続けていければと考えています。



岩手県北上市黒沢尻北地区民児協との情報交換会。当市から北上市へ転出された方も多く、互いの連携を確認しました。(平成 24 年 5 月)



大阪市西淀川区民児協との情報交換会。阪神淡路大震災を経験されている方々との交流は有意義なものとなりました。(平成 24 年 11 月)